

消防指令システム等の相互接続に関する研究会（第4回） 議事要旨

1 日時

平成30年3月15日（木） 9時55分から11時05分まで

2 場所

（一財）日本消防設備安全センター第1会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 構成員

藤井座長（電気通信大学）、石橋座長代理（電気通信大学）、井上構成員（（一社）九州テレコム振興センター）、岡本構成員（駿東伊豆消防本部）、奥村構成員（神戸市消防局）、喜島構成員（徳島中央広域連合消防本部）、丸山構成員代理（長野市消防局）、杉村構成員（さいたま市消防局）、高橋構成員（京都市消防局）、日向野構成員（㈱日立国際電気）、前田構成員（（一社）情報通信技術委員会）、牧構成員（日本電気㈱）、松波構成員（日本無線㈱）、松本（耕）構成員（㈱日立製作所）、松本（信）構成員（沖電気工業㈱）、榊田構成員（東京消防庁）、山田構成員（富士通㈱）、山根構成員（㈱富士通ゼネラル）、吉田構成員（全国消防長会）

(2) 消防庁防災情報室

森川防災情報室長、阿部課長補佐、五通係長、藤田総務事務官、足立総務事務官

(3) 支援業者

（一財）日本消防設備安全センター

4 議事

(1) 開会

(2) 議事

ア 前回会合の議事概要について

資料4-1に基づき、第3回会合の議事概要（案）について事務局から説明があった。

イ TTCにおける共通インターフェース仕様の検討状況について

資料4-2に基づき、TTCにおける検討状況について松本構成員（信）（沖電気工業）から説明があった。

ウ 中間とりまとめ（今後の検討の方向性）（案）について

(ア) 資料4-3に基づき、論点整理資料に対する主な意見について事務局から説明があった。

(イ) 資料4-4に基づき、作業文書改定方針（案）に対する主な意見について事務局

から説明があった。

(ウ) 資料4-5に基づき、中間とりまとめ(今後の検討の方向性)(案)について事務局から説明があった後、以下のとおり質疑応答が行われた。

最後に、本日の議論を踏まえて修正した中間とりまとめ(今後の検討の方向性)を公表することとし、修正の内容については座長に一任することが了承された。

構成員：共通インターフェースの仕様策定に関するスケジュールだけが記載されているが、本研究会の検討項目として、仕様書の記載内容の留意事項のとりまとめ(ガイドラインの作成)も示されていたと思う。

また、消防本部としては、30年度、31年度の各年度事業で、無線機の更新を行う予定がある。事務局には、これまでの研究会で、各メーカーから情報提供があった仕様書の問題点に関して、各消防本部に事前に注意喚起をするような処置をお願いしたい。

事務局：一つ目は、共通インターフェース仕様書の策定と発注仕様書のガイドラインのふたつをまとめることが分かるように修正する。

二つ目については、各消防本部での会合等の場を活用しながら、今の検討状況を周知するような形で取り組んでいきたい。

構成員：消防本部からの意見で、消防本部の規模や地域特性によって必要な機能は異なるとあるが、どの機能、インターフェースからの条件が、それに相当するのかを具体的に検証してはどうか。

事務局：機能については、それぞれの実状に応じた拡張性は残してもらいたいという意見と、一方で、無数のバリエーションがあるとメーカーも無数のパターンを作らなくてはならなくなり、それがシステムの高騰に繋がっていくこともあるかと思うので、そこをどうしていくかが非常に重要であると考えている。今回、共通インターフェース仕様書には、それぞれに機能を網羅的に列挙して、必須機能と個別機能が整理されるので、それを消防本部が見て、それをどのように調整していくのか、消防庁としても引き続き検討していきたい。

構成員：消防指令システムが既設で、消防救急無線が新設という図があるが、逆の場合は中間サーバーが逆に入る。相互接続に出てくる図がこのパターンしかないように思える。

事務局：逆の場合もあることがわかるよう修正する。

(3) 閉会

以上